

水泳の啓発 普及を目指して

～公益財団法人設立2年を振り返り、次年度への新しい意欲をもって～



業務執行理事
高木 克己

2014年3月20日、内閣府の公益財団法人の認定を受け同年4月1日「公益財団法人国際水泳殿堂・アジア」の法人登記を完了し、公益財団として公益事業を開始しました。

当財団の公益事業は定款に定められた公益事業12項目であり、1. 展示場ABの開設をはじめ、年間のスケジュールは急務でした。主要事業の「シンポジウム」「顕彰・表彰式」と同時開催の会員懇親昼食会も昨年を上回る盛況ぶりで終了でき、主目的である「水泳の啓発・普及を目指して」に、いささかの貢献ができたかと自負いたしております。

公益財産としてまず第一に財務の確立が急務です。全国区でありながら今年度の寄附・賛助会員の分布は21都道府県にとどまり、次年度は全国47都道府県からの寄附・賛助会員の獲得を目指します。

財務担当の構成、人員を強化し、大手企業への本格的取り組みを始めます。しかし、このような極めて厳しい条件の中で、目的事業が達成できたのは、当財団の主旨に快くご賛同いただき、ご協力いただきました寄附・賛助会員並びに篤志家の方々のご助力以外ありません。

旧財団法人愛知国際水泳殿堂・アジアから公益財団法人国際水泳殿堂・アジアはその組織を大幅に縮小しました。41名の役員が15名になりました（評議員24名が8名、理事15名が5名、監事は2名）。大変な戦力低下です。しかし、この15名の役員は舎人代表理事のもと結束し、公益財団法人としての使命を果たすべく、全力を傾注しています。

当財団は1. 水泳の大切さ、2. 水泳の面白さ、3. 水泳の効果 を説き、「小さく、ゆっくり」夢に向かっていきます。

今年度ご協力、ご助力いただきました皆様はもとより、是非、ご家族、ご友人、知己の方々へのご情宣をお願い申し上げます。ご協力、ご支援に心から感謝申し上げますと共に、次年度（2016年4月から）も変わらぬご助力を心から重ねてお願い申し上げます。

※当財団の事業の関係でご登録いただきました一部の会員様に礼状・領収書の発行が遅れましたことをお詫びします。

2015 年度会議

下記主要会議のほか 毎月月例役員打ち合わせ会開催 理事出席義務者 評議員出席権利者

6月21日(日) 2015年度第一回 定例評議員会、理事会 : 名古屋・大須・ローズコートホテル
2014年度 事業報告 収支決算報告 承認

11月14日(土) 臨時役員会 : 名古屋・大須・ローズコートホテル
評議員・理事・監事・推進委員、拡大実行委員会
「シンポジウム」「顕彰・表彰」「会員懇親昼食会」 準備確認会議

2月28日(日) 2015年度第二回 定例評議員会、理事会 : 名古屋・千種・今池ガスビル
2015年度 事業報告 収支決算報告 理事改選 承認

財団の基本情報

名称：公益財団法人 国際水泳殿堂・アジア
設立日：1992年（平成4年）8月19日
移行日：2014年（平成26年）4月1日
代表者：代表理事 舎人 経昭
基本財産：148,000,000円
その他財産：86,000,000円
本部：〒464-0095 名古屋市千種区天満通 1-46

役員

2016.4.1

代表理事	舎人 経昭	評議員	川村 俊五	評議員	藤城 弘幸
業務執行理事	高木 克己	評議員	上里 修司	評議員	舎人 久子
理事	磯部 正	評議員	須賀 豊	評議員	伊藤 裕司
理事	竹田 幹夫	評議員	田中 孝	監事	小久保 孝樹
理事	菅原 宣彦	評議員	伴野 泰申	監事	武藤 龍治

会報発刊 100 号を記念して

1997

平成 4 年、財団法人愛知国際水泳殿堂・アジアの創刊号から公益財団法人国際水泳殿堂・アジアに移行して、今回の 6 号が創刊 100 号となる。平成 4 年から平成 13 年までは年 6 回、その後、年 4 回、平成 19 年から年 3 回の発刊となった。内容は国際水泳殿堂・アメリカの紹介、収蔵品の紹介、世界の水泳情報の提供、そして国際水泳殿堂の最高の栄誉である「入堂」に関するものであった。特に日本人入堂者に関する情報は貴重なものであった。設立当時の日本の経済状況はバブルの最盛期であり、寄附会員・賛助会員の申し込みも多く、紙面の多くを寄附者賛助会員者の紹介にあてた。

当財団は国際水泳殿堂・入堂者選考委員の推薦権をもち、平成 4 年に日本人 1 名であった選考委員はその後、6 名（1 名死亡）まで増員できた。さらに昨年は本部推薦で東島新次氏が選考委員に就任され、今後の国際水泳殿堂「入堂」に関して、日本水泳界にとって大きな戦力となり期待される。この選考委員の増員は平成 4 年日本人入堂者 11 名、（入堂者 420 名）であった実績が、平成 27 年には 29 名（入堂者 712 名）となった。これはあくまでも入堂された個々の方々の実績によるものだが、世界の水泳界との比較に対し側面的な支援が一助となったとも思える。現在も国際水泳の首席名誉顧問を務められる菅原宣彦：当財団渉外担当理事は国際水泳殿堂の理事会で入堂者の「世界のバランス」を常に強調し続けられた。

どの組織でもそうだが数の力、投票には大変な努力が必要である。現在日本人として入堂者候補としてノミネートされている方々が 1 日も早く入堂されるよう側面的な努力を重ねる。

当初 B 5 版の会報は平成 19 年から A 4 判（カラー）となった。公益財団法人設立後の会報 No. 1 は平成 26 年 6 月に発刊した。現在は 8 頁仕様であるが、近い将来 12 頁に、そして年 4 回発刊を目指す。

苦しい長い低迷し続けた旧財団が内閣府認定の公益財団法人として成熟していけるよう今後の使命を再認識し会報の発刊につとめる。

代表理事 舎人 経昭 会報編集委員長・総務担当理事 磯部 正

2015 年度 公益事業

- 1 展示場 A 継続 展示品 一部入れ替え
- 2 展示場 B 継続 展示品 一部入れ替え
- 3 会報の発刊 No. 4 : 6 月 10 日 No. 5 : 10 月 10 日 No. 6 : 2016 年 3 月 10 日
- 4 無料水泳教室 名古屋市名東プール（月 2 回）、安城市民プール（月 1 回）
知多市水泳教室後援 7 月 20 日（月）～ 24 日（金） 旭南小学校プール
南知多町水泳教室後援 8 月 4 日（火）～ 8 日（土） 師崎小学校プール
※公益財団法人水泳指導員の認定・選考委員会
- 5 水泳大会「タイムトライアル」10 月 31 日（土） AM 9 : 00 ～ 12 : 00
コパンスポーツクラブ緑 公益財団法人展示場 A 会場
<種目>バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、自由形 各 50m
- 6、7、8 は次ページに
- 9 助成事業・B 水泳大会振興のための助成
9 水泳界振興のための助成 10 水泳大会の助成
11 地域振興のための助成 12 指導力向上のための助成

2016 年度 第 3 回「シンポジウム」「顕彰・表彰式」 基調講演・特別講演 講師決定

2016 年 11 月 27 日（日）AM 9:00 ～ PM 4:00 名古屋中区・大須・ローズコートホテル

基調講演：清原 伸彦 先生
日本体育大学名誉教授・医学博士

日本水球会のオーソリティ
日本体育界の重鎮
集団行動・行進で世界に羽ばたく

特別講演：菊浦 祐介 様
共同通信社・運動部記者

第 31 回リオオリンピック水泳担当
共同通信社派遣記者

※詳しくは会報 No. 7、6 月 1 日発刊に紹介

推進委員会 代表：奥田 守男

委員：河合 朗夫 大石 友美 早田 道春 近藤 克巳 足立 陽二郎 楠本 賀章 林 佳宏

・公益財団法人事業の円滑な運営のための支援 ・寄附賛助会員の獲得



INTERNATIONAL SWIMMING HALL OF FAME

6 2015年度第2回シンポジウム 2015年11月29日AM9:30開会 名古屋・大須・ローズコートホテル

基調講演 深代 千之先生 東京大学大学院教授

今日の講演では、「スポーツ科学の最前線」ということと「子どもの発達に必要なこと」の内容を用意させていただきました。

私が東京大学を出て最初に就職したのが、鹿屋体育大学で、陸上のコーチとして選手をコーチングしていました。

その後、もう一度科学とコーチングを融合させたいということで、愛知県知多半島のスポーツ医科学研究所で、選手の体力を科学的にとらえてどうやってトレーニングに生かしていくかという研究を行いました。その中の一つのイベントとして、1991年に東京で世界陸上があり、全種目撮影と分析をいたしました。

走り幅跳びでパウエル選手が8m95の世界記録を出しました。第2位のカール・ルイスとの比較で、動作解析を行いました。

同時にスプリント走の分析も行いました。100mの最初の世界記録は1912年で10秒6でした。それが今では9秒58、100年で1秒早くなりました。日本選手をどのようにサポート研究していくかということで、国立スポーツ科学センターで、走路にセンサーとカメラを設置し選手のフォームを撮影しました。その結果から見ると、昔は速く走るために膝を高く上げることを要求しましたが、膝を高く上げることはだめで、腰の関節の力が重要ということが分かりました。細かく見ると、足首は地面にあるときだけ力を発揮し、膝は力を発揮しません。大きく力を発揮するのは腰です。脚を前から後ろにもってくるのと、脚を蹴り上げるときに大きく力を発揮する。これが、最近話題になっている腸腰筋という筋肉です。皆さん、膝に手を当てて膝が上がらないようにして膝を上にするようにすると脚のつけ根あたりが動く、それが腸腰筋です。それを鍛えると脚が素早く上がります。もう一つは腿の裏側が重要です。これを解明できたことがスポーツでの貢献といえます。

子どもの発達に必要な要素は、鍛えれば強くなる力強さ（筋肉・骨格系）と粘り強さ（呼吸・循環系）、パターン生成の巧みさ（脳神経）の3つがあります。

運動の巧みさは、脳の指令で身体が動くということです。これは日本人の長所であり、スポーツではこの長所を生かすことが大切です。巧みさは、とにかく1回できなくてはなんともならないのです。

今まで日本は「学力と運動は別」というように考えられてきました。受験による弊害を払拭し、勉強もスポーツもできる子を育み、いわゆる文武両道であり「知・徳・体」が大事であることを主張しています。



特別講演 東島 新次氏 国際水泳連盟アジア情報局員



リオ・デ・ジャネイロ五輪（リオ五輪）に向けてのお話をさせていただきます。

国際水泳連盟は水泳の人気をさらに盛り上げようと努力しています。大きな流れとしては新しい種目の演出です。例えば、ハイダイビング（男子27m、女子20m）、シンクロナイズドスイミングのミックスデュエット（男女デュエット）、リレーのミックスドリレー（男女混合リレー）の紹介です。残念ながらこれらの種目はまだオリンピックの正式種目には認定されていませんが、間違いなく世界水泳の流れは男女混合や新しい種目によって、水泳スポーツ人口を増やしていこうと試みています。一方、少し厳しい見方を求められるのはドーピング問題です。カザン世界選手権を振り返るまでもなく、ドーピング問題は水泳だけに限らずスポーツ界全体の深刻な問題として取り組まなければなりません。こういったことも含め、今日は話を広げていきたいなと思います。

最初に皆さんにお配りした資料からお話を進めさせていただきます。

リオ五輪で活躍する選手たちとして、渡部香生子選手、星奈津美選手、瀬戸大也選手の名前が上がります。実力派の渡部、星、瀬戸の3選手は、カザン世界選手権で金メダルを獲得しましたので日本代表に内定しました。その他にも活躍が期待される選手たちが沢山います。入江陵介、小関也朱篤、萩野公介（右肘骨折で世界選手権不参加）、坂井聖人（北島康介選手の代表入りも噂されている）等の各選手たちです。それに今回表彰された池江璃花子選手がリオ五輪で活躍、どのレベルでの快泳？決勝？期待が高まります。その大きな期待で資料に通してください。

今年、第92回日本選手権兼リオ五輪代表選手選考会（2016年4月4日～10日、東京辰巳）が開催されます。日本の場合、7日間の大会日程ですが、オリンピック本番は8日間です。日本は知恵を出し合って7日間にしました。ところがアメリカ、オーストラリア、イギリス、スペイン等はオリンピックプログラム通り8日間です。7日間と8日間の違いは神のみぞ知る、世界です。リオ五輪の予選は午後1時開始、決勝は午後10時開始で終了は0時を過ぎると予測されます。タフな選手に有利なスケジュールです。タフなスケジュールで勝ち残るのはとても厳しいです。これは選手の体調管理がとても重要ですし、超人的なタフさが問われてきます。日本選手権はトレーニングの一部として捉え、楽々と乗り越えるぐらいのタフさの試しどころにするぐらいでなければなりません。萩野選手を例に挙げると、12月からスペインでの高地トレーニング、年が明けてのアリゾナの高地トレーニングに出かける予定です。これらのスケジュールを楽々と乗り越えて欲しいものです。あっと言う間に選考会初日の4月4日がやってきます。日本人選手のリオ五輪での活躍を極論すれば「初日の活躍にかかっている」です。萩野、瀬戸両選手が出てくると思われる男子400m個人メドレーと男子400m自由形（初日のスケジュール）の結果次第、初日の出来にかかっていると言っても過言ではないでしょう。日本人の特徴として初日に勝つと「始めの結果が良ければすべてよし」で上り調子に乗っていきけるでしょう。萩野選手と瀬戸選手の活躍が好結果として見られると、日本の選手はドドドッと超活躍していく流れになっていくと思います。

リオ五輪での日本チームのメダル獲得数目標は、カザン世界選手権でのメダル獲得数、金メダル3個、銀メダル1個を上回ることを、と言っています。とにかく初日の出来次第と申し上げたいと思います。そういう流れの中で、人間の強さ・弱さ、線の強さ・弱さ、そういったことがストレートに伝わってくると思います。それがオリンピックです。ワクワク、ドキドキのレースに期待しましょう。本物のレース、ドラマが観られる・・・それがオリンピック！噂のドーピングドラマは観たくありません。

リオ五輪に向かって選手たちは熾烈な戦いを繰り広げ、選考会で代表権をかけて戦います。代表権を獲得した選手たちはリオ五輪で活躍する実力ある選手たちだと思います。

※深代千之、東島新次ご両名より多額のドネーションをいただきました。感謝申し上げます。

7 2015年度 第2回「顕彰・表彰式」

水泳を始めよう。水泳をすすめよう。

JOHNNY & F. MULLER

2015年度 『シンポジウム』『顕彰・表彰式』

主催 公益財団法人国際水泳殿堂・アジア

特別協賛 近藤産興株式会社 協賛 株式会社コパン 株式会社百商 株式会社スウイズ

大賞・水泳特別功労賞

石井 宏 様 元 日本大学常務理事

スイーマー奨励賞

池江 瑠花子 様 小岩井第四中学校・ルネサス亀戸

コーチ奨励賞

小池 隆治 様 豊川高校



池江瑠花子様 大会出場のため受賞式欠席



石井 宏様 表彰者 舎人経昭代表理事



小池 隆治様
表彰者 深代千之東京大学大学院教授

当財団の収蔵品を一部展示



「会員懇親会」



特別表彰受賞 株式会社近藤産興様

2015年度会員懇親会は「シンポジウム・顕彰表彰式」後、1部は昼食会として開催。128名が出席。舎人代表理事を交え会員相互の懇親を図った。

2部は特別講演終了後、多くの賛助会員社・個人からのお土産のほか、「ジャンケン大会」「抽選会」でさらに盛り上がった。



会員懇親会・抽選会

選考委員会

委員長：菅原 宣彦

代表：石井 宏・オリンピックメダリスト 小沢 剛・共同通信社 小島 金嗣・学識経験者

宮島 年男・学識経験者 磯部 正、高木 克己・国際水泳殿堂入堂者選考委員

公益事業

- 1 展示場A 継続 展示品 一部入れ替え
- 2 展示場B 継続 展示品 一部入れ替え
- 3 会報の発刊 No.7:6月1日 No.8:10月1日 No.9:2017年3月1日
- 4 無料水泳教室 名古屋市名東プール(月2回)、安城市民プール(月1回)、蟹江・ケーニーズ(月1回)
知多市水泳教室後援 南知多町水泳教室後援 公益財団法人水泳指導員の認定
- 5 水泳大会「第1回タイムトライアル」6月5日(日)AM9:00～ケーニーズ
「第2回タイムトライアル」10月30日(日)AM9:00～コパンスポーツクラブ緑
＜種目＞バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、自由形 各50m 参加費1種目500円 2種目まで
小学校1年生からマスターズまで ディプロマ(認定証)・参加賞 100名
- 6 「シンポジウム」開催 2016年11月27日(日)名古屋・大須・ローズコートホテル
- 7 「顕彰事業・表彰」 6、7についての詳細は 会報No.7-101に掲載 H・P紹介
- 8 助成事業・A 水泳界発展のための助成 指定団体
- 9 助成事業・B 水泳大会振興のための助成 9 水泳界振興のための助成 10 水泳大会の助成
11 地域振興のための助成 12 指導力向上のための助成

収益事業

- 1 スイミングスクールの運営
- 2 グッズの販売 A) スクワランオイルの販売 B) PISAM グッズの販売

2016年度 収支予算書

2016.4.1～2017.3.31

収入の部		支出の部	
賛助会員	4,800,000円	公益事業	7,200,000円
寄附会員	8,000,000円	収益事業	1,800,000円
収益事業	2,600,000円	法人	3,200,000円
合計	15,400,000円	合計	12,200,000円
		差額	3,200,000円
		※差額は展示物購入引当金(固定資産購入)	

～水泳の啓発 普及～ 啓発とは知識を与え広めていく、普及とは一般の人々に広く行きわたらせる

「水泳を始めよう」「水泳をすすめよう」

～水泳の特性～

水泳は人間の成長期に最も効果のあるスポーツである。海、河川に恵まれた日本では水との接触のない生活はあり得ない。近代スポーツ施設(プール)の充実により、より身近に水に接することが容易になった。泳げない幼児は水に落ちれば間違いなく死にいたる。しかし、泳ぎ方を学ぶことにより、水に浮き、進み、速く、遠くまで泳ぐことができる。そしていくつかの泳ぎ方まで習得し、泳ぐ楽しさを知ることとなる。

～水泳の習得～

水泳の習得の時期については諸説あるが、幼稚園、少なくとも小学校2年生ぐらいまでに始めるのが理想である。あまり物事に対する理解ができない、指導者の言葉の理解、周囲の人間関係、家庭環境など様々な要因があるが、個人の能力の問題もあり、判断はまちまちである。

～水泳は小学生で父親に勝てるスポーツである～

小学校2年生で水泳を始めたとして、スイミングスクールで週2回、2年間で100m個人メドレー(バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、自由形 4種目)まで習得するだろうし、得意種目についてはかなりの距離を泳ぎ切るだろう。この時点で普通の父親は子どもに勝つことができない。

～水泳環境の整備～

公共施設としてのプールが完備され、さらにスポーツクラブ、スイミングスクールが充実している。スポーツクラブ、スイミングクラブの指導者、インストラクターは日々研鑽に励み、それぞれが必要なライセンスを取得している。水泳指導は専門家に委ねるのがより効果的であり、夏季短期水泳教室もよい。

～学習、文化、他のスポーツとの兼ね合い～

現代ちびっちは多忙である。それだけに、小学校4年ぐらいを目途に泳げるところまで到達する。そして自分が目指す学習、文化、他のスポーツに転ずればよい。サッカー、野球など他のスポーツに転ずる時も水泳は全身運動に加え、呼吸器、循環器、持久力、瞬発力のトレーニングをなしている。

～水泳を続ける子どもたちに育成・選手コースへ～

各種大会の記録は今日きわめて高いレベルにある。自分が水泳に適しているか、将来性は、そして一定のレベルに達した時、区切り(小学校、中学校、高校、大学卒業時)を判断すればよい。人生の進むべき道はすべて異なる。両親、コーチ、学校の先生と相談することが良策である。

～健康維持・増進のためのマスターズ水泳～

泳げない人は水中ウォーキングから。都市部に限らず公営のプールを活用しよう。民間スポーツクラブ・スイミングクラブの活用。

・利用の方法によって決して高価ではない。

～水泳をはじめましょう～

水泳は人間のすべての筋肉を動かすスポーツである。筋力の強化・維持(持久力・瞬発力・伸展)・呼吸器・循環器によりよい効果が期待できる。

「水泳を始めましょう。水泳をすすめましょう」

公益財団法人 国際水泳殿堂・アジアとは

旧財団法人 愛知国際水泳殿堂は平成 4 年 8 月愛知県教育委員会認可、平成 26 年 4 月 1 日内閣府公益等認定委員会からの移行認定を受け、「公益財団法人国際水泳殿堂・アジア」として活動を開始することになりました。

公益財団法人として公益事業を着実に実施し、日本水泳界の発展の一助となるべく努力を重ねています。

国際水泳殿堂とは

FINA (国際水泳連盟) の承認。1963 年アメリカ フロリダ州フォートローダーデール市に設立された。水泳に関する資料、オリンピックメダル、彫刻、絵画、トロフィー、ブロンズをはじめ、水泳に関する多くの資料を保存・展示している。文字通り世界一の水泳博物館。国際水泳殿堂は、50m×2、飛込みプール施設を持ち、シーズンを通して大会、合宿、イベント等を開催し、多くの水泳関係者に利用されている。



国際水泳殿堂 日本人入堂者

「日本人入堂者 29 名 / 入堂者総数 712 名」

●北村 久寿雄	●古橋広之進	●鶴田 義之	●清川 正二	●前畑 秀子	●宮崎 康二	●古川 勝	
山中 毅	田口 信教	青木まゆみ	●葉室 鉄夫	●高石 勝男	●牧野 正蔵	田中 聡子	
●遊佐 正憲	橋爪 四郎	●長沢 二郎	●寺田 登	●小池 礼三	●村上 勝芳	●新井 茂雄	
加藤 浩時	大崎 喜子	●大崎 剛彦	小谷実可子	●松沢 一鶴	中村敬次郎	立花 美哉	
金子 正子	「入堂ノミネート中」	入堂推薦申請	石井 宏	鈴木 大地	岩崎 恭子	馬淵 よし子	岩本 光司 (●印故人)

1997 年入堂式典とは：国際水泳殿堂

アジアで初めて国際水泳殿堂入堂式典を開催。「1997 年 6 月 13 日、14 日」新設の国際水泳殿堂（名古屋市スポーツ振興会館）をはじめ、隣接のレインボープール、名古屋キャッスルホテルにおいて世紀の国際水泳殿堂入堂式典が、40 年の歴史の中で初めてフォートローダーデール市を離れ日本で開催された。

(参加者 5,000 名、ISHOF から理事・評議員 60 名)



リオオリンピック代表選手を目指し、頑張れ！日本水泳界の精鋭

公益財団法人 日本水泳連盟

～ 競技会日程 ～

第 92 回 日本選手権 兼 リオオリンピック代表選手選考会	2016 年 4 月 4 日～ 4 月 10 日	東京・辰巳
第 31 回 リオデジャネイロ オリンピック大会	ブラジル・リオデジャネイロ	
(競泳) 8 月 6 日～ 13 日, (水球) 8 月 6 日～ 20 日, (飛び込み) 8 月 7 日～ 20 日, (シンクロ) 8 月 15 日～ 20 日		
2016 年 ジャパンオープン	5 月 20 日～ 22 日	東京・辰巳
第 33 回 ジャパンマスタース	7 月 15 日～ 18 日	千葉・新習志野
第 56 回 全国中学校体育大会・インターミドル	8 月 17 日～ 19 日	新潟・長岡
第 84 回 全国高等学校総合体育大会・インターハイ	8 月 17 日～ 20 日	広島・広島
第 92 回 日本学生選手権水泳競技大会・インターカレッジ	9 月 2 日～ 4 日	東京・辰巳
第 71 回 国民体育大会	9 月 9 日～ 11 日	岩手・盛岡
第 39 回 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会	8 月 22 日～ 26 日	東京・辰巳

～ 編集委員会 ～ 委員長：磯部 正 副委員長：川村 俊五

公益財団法人設立以来、6 号の発刊となりました。さらに充実した会報作りに邁進してまいります。皆様のご投稿をお待ちしております。

